

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0471400226
法人名	有限会社 庄司ケアサポート
事業所名	グループホーム 日和
所在地 (電話番号)	東松島市赤井字台94 (電 話) 0225-84-1221
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 7 月 15 日

## 【情報提供票より】(平成 20 年 4 月 1 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 9 人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造 平屋 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	14,500 円
敷 金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有( 72,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 270 円
	夕食	450 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 970 円		

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1		要介護2	2 名
要介護3	6 名	要介護4	1 名
要介護5		要支援2	名
年齢	平均 81.3 歳	最低 68 歳	最高 88 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	仙石病院 ヤモト歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「日和」は経営者の想いがあって設立された。「日和山」の地域に愛され親しまれている山の様に、また、想い「晴れた天気」を想像する様な“やさしさ、気配り、思いやり”をケアの行動規範とし全職員が同じ思いであった。10時過ぎに訪問した時は広い庭に大きなパラソルの日除けをつくり、丸テーブルを囲んで思い思いにとうもろこしの皮をむく人、お茶を飲む人、談笑する人、まぶしい陽射しを避けながらそよ風に吹かれ和やかな憩のひとときが見られた。特にホームで気を使っている事はその人その人を「受容」してケアをすると言う事であった。長い人生を生きてこられた入居者に対する想いが感じられた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題であった「同業者との交流」については、個別的な交流は見られたが、連絡協議会としての立ち上げはこれからである。行政も関心を持っており、役割分担し協力しあって立ち上げて頂きたい。食事前の嚥下体操や声だし、午後のリハビリ体操など楽しい雰囲気で行われていた。楽しく継続する事を期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は自分達のサービスの見直しや点検の機会として、職員皆で時間をかけて話し合った。特に新人職員とベテラン職員との話し合いは、チームケアとして有意義であった。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、場所、メンバーの日程調整など準備は大変であるが、計画的に2ヶ月に1回は開催している。会議では事業者から入居者の日々の生活や行事等の報告があり、それに対してメンバーからは質問や意見等双方向の会議になっており、具体的にサービスの質の向上に会議は活かされている。(議事録から)尚、今後は知見を有する人(防犯、防災、人権、医療等の関係者)もオブザーバーとして招待するなど幅広い運営推進会議のあり方等も今後の課題である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族は、原則として月1回は支払いの為来所するので、その時に入居者の生活の様子等いろいろお話をしている。「何時行っても暖かく迎えてくれ、よく気配りしている事がわかり、相談もし易く安心しています。」(家族アンケートより)しかし、相談苦情については、入居者や家族の躊躇する心理的な面にも配慮し、話し易い雰囲気を持つ第三者委員を委嘱し、その事を入居者や家族に繰り返し伝えて頂きたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは、町内会に加入し会費も納めている。ホームの夏祭りには、テント張りから地域の人達の協力を頂いている。区長さんは、いろいろな情報を提供してくれたり、時には七夕の笹竹を持って来てくれるなど協力して頂いている。ホームは在宅の認知症ケアの地域拠点として、地域から依頼があれば管理者は「認知症高齢者への接し方」等の講話をしている。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時(平成15年11月)につくられた基本理念は、あるべき事業所の姿勢は見られるが、制度改正(平成18年4月)によりグループホームは、地域密着型サービス事業として、地域との関係性がより重視される事になった。これまでの理念に加えて、その役割の目指す内容となるよう基本理念の見直しをお願いしたい。	○	地域との関係も良好に実施されているが、地域密着型サービス事業としての意義を考え、「地域生活の継続」と「地域との関係性強化」も基本理念に取り組んでいただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は行動の規範であり、理念をただ漫然と理解しているのではなく、日々入居者その人を「受容」し足りない所を判断し、支援するよう意識してケアに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にも加入している。ホームの夏祭り等には TENT 張り等、地域の人達の協力を頂くなど地域の一員として溶けこんで来ている。特に区長さんからの助言や情報等はホームの大きな支えとなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、自分達のサービスの見直しや点検の機会として、職員皆で時間をかけて話し合った。特に新人職員とベテラン職員との話し合いはチームケアとして有意義であった。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヵ月に1回計画的に開かれている。事業所からは入居者の日々の生活や行事などの報告がなされ、それに対しメンバーからは、質問や意見等双方向の会議になっており、具体的にサービスの質の向上に活かされている。(議事録から)		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は非常によい。今回の外部評価にも市から同行された。市主催の研修会には職員も参加し、管理者はキャラバンメイト(認知症ケアの指導者)として市に協力をしている。事業所は、認知症になっても安心して住める町づくりの、地域の拠点として市との連携をさらに大事にして頂きたい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	支払いの為に、月1回は家族が来られるので、その時に入居者の生活の様子等をお話しをしている。来れない時には、月1回は手紙で入居者の様子をお知らせしている。その時に家族からお礼の電話などがあり、詳しくお話をしたりしている。尚、2か月に1回は、会報で写真を中心に入居者の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は、意見や苦情はサービスの向上にとって貴重な情報源である事を理解しており、「相談ノート」を作り相談や苦情に耳を傾けている姿勢は理解できたが、重要事項説明書に苦情相談の窓口としての第三者委員の明示がない。	○	入居者や家族からの「相談や苦情」に適切に対応する為には、ともすれば躊躇する入居者や家族の心理面にも考慮し、話し易い雰囲気を持つ第三者委員を委嘱し、重要事項説明書にも明記し、その事を繰り返し入居者や家族に伝えて頂きたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年の秋には離職する職員がいたが、入居者にできるだけ不安や精神的な負担をかけない様努力をした。新人職員に管理者がついて、入居者の今までの生活が継続できるよう配慮しサポートをした。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアは対人サービスであり、職員の資質の向上の為の研修は、基準省令でも義務条項である。管理者は研修を大切にしており、年間計画はないが研修の都度職員に声掛けをしている。又国家資格の取得にはテキストを購入したり、勤務を調整したり応援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流や連携は、事業所のサービスの向上の確保にとって必要なことは、お互いの見学や交流を通して理解しているが、ネットワークとしての組織化は道半ばである。	○	市内の5つのグループホームの連絡協議会の立ち上げについては、行政も強い関心を持っており、行政とそれぞれ役割分担をし協力し合い、日々のサービスの向上や職員育成等に役立つようなネットワークの組織化の立ち上げに努力をして頂きたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人にホームやホームの生活を見てもらい、本人もそれなりにホームを理解し少しでも顔なじみになって入居して貰える様努めている。その事によって早くホームに馴染み、家族にも安心して貰っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	庭の本格的な家庭菜園は、今いろいろな収穫期であり、入居者と職員と一緒に農作業を進めながら、たまねぎやじゃが芋の扱い等入居者から職員が教わる事が多い。芋煮会や敬老会で入居者も家族も職員も皆で、楽しんでいる風景が会報の写真からも見られた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の「思いや意向」の把握はケアの原点である。日常生活での本人の何気ないつぶやきや、家族や友人など関係者からのお話などを整理し共有し活用している。東京センターの状態記入シートなども一部利用している。意志表示の困難な人でもじっくり時間をかけて対応しており表情やうなづきなどから理解している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の状態を確認し、家族の意見も聞きカンファレンスを行い、短期、長期の目標を立てて介護計画を作成している。家族には介護計画を説明し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、基本的には3ヶ月に1回である。認知症の状態の変化や病状によっては、必要に応じてその都度見直しを行っている。見直しについても家族から同意を得ている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療との連携体制を活かし、協力病院の協力を得ながら、入居者の病歴やデータの管理をして頂き、必要な医療措置に柔軟に対応している。又ショートステイやデイサービスの利用出来る多機能についての取組みは条件もあるが今後の課題である。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医への通院には、できるだけ家族の「きずな」を深めるために家族の付き添いをお願いしている。なお、送迎は職員が支援している。入居者の病状等についての情報は家族と職員は共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者が重度になり、医師に入院を勧められても本人の意思を尊重し、医師、家族の協力を得、経営者を始め職員の協力もあり対応方針を決め思いを共有した。緩和ケアを中心にできるだけ痛みや苦しみが無いように対応し最後はホームで看取った。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を考え、呼び名一つにしても本人の気持ちを尊重している。トイレの前誘導もさりげなく行っている。声掛けやケアの態度は、入居者が萎縮するようなことは見られなかった。個人情報の取り扱いも家族に説明し、同意を得ておりその事を職員も理解している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとり、その人の持ち味を尊重し、歌、ぬり絵、編物、パズル、計算、農作業等好きな事を自由にして頂ける様支援している。食事は、出来るだけ一緒にし生活のリズムを大切にしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者が、食事を楽しみにしている事を職員は理解している。美味しく楽しい食事会にする為、入居者に声を掛けながら準備をしたり、漬物のつけ方を教わったり、職員も一緒に同じものを食べている。食事をしながらの会話も明るく朗らかで本当に認知症の方がただろうかとと思うほどであった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は衛生的な観点だけでなく、好きな時間にのんびり気持ちよく入ってもらえる様にサポートしている。朝風呂や、午前に入る人、夕食前に入る人、1時間も入っている人、毎日入る人等それぞれである。又入浴を拒む人には、如何に入って貰えるか知恵を出して対応している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の職歴、生活歴からその人その人持ち味や特技を見出し、字を上手に書く人、編物をする人、農作業でいろいろ教えてくれる人等、それぞれのプライドを尊重しながら生き甲斐を感じて頂けるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	「足腰が衰えてきて歩くのも困難になって来たが、ホームの車でよくドライブに連れて行って頂き喜んでい」(家族アンケートより)。入居者によっては土曜、日曜は家族と食事によく出かけている。出来るだけ外出して楽しんで頂けるようサポートをしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は、日中鍵を掛ける事は人権の問題であり、虐待にも繋がりがねない事をよく理解して目配りや見守りをし日中は鍵を掛けていない。尚外部からの不審者に対しては近隣の人達の理解と協力を得て対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	重要事項説明書にも、災害時の対応は定められている。近く予想される宮城沖大地震などを想定しながら、消防立会いの災害訓練も実施している。唯夜間を想定した避難訓練、事業所と住民連携の訓練、非常食や備品の見直し等も検討して頂きたい。	○	深夜の夜勤者1人の時にライフライン(電気、水道、ガス)が断たれるような大災害の時でも、慌てず避難誘導が出来る様に、職員と入居者が一緒になって夜間を想定した訓練を検討して頂きたい。又非常食、飲料水、探照灯、携帯ラジオ等目につく様に最小限の備えもお願いしたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重は月2回、水分摂取量は毎日チェックしている。必要ある人には食事量を調整したり、きざみ食にしたりトロミをつけたり食べ易くしている。栄養のバランスは調理師が食材のバランス等を考えているが1～3ヶ月に1回程度は、市の管理栄養士や保健所の栄養の専門的な立場の人から指導や助言もお願いしたい。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には、入居者と職員の手作りの七夕飾りが見られ、季節を感じさせられる。ホールに入ると吹き抜けの天窓より、自然の採光が取り入れて明るい。ホールには、外出した時の写真や手作りの作品などもあって、家庭的な和やかさが感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	認知症の方には、如何に馴染みのものが必要か家族の方によくお話し、出来るだけ馴染みのものを持って来て貰うようお願いしている。同意を得て見せて貰ったお部屋には、整理ダンス、使い慣れた机、手作りの紙細工、家族の写真、テレビ、位牌等、自分の居場所としてほっとするものを感じた。		